

2027年国際園芸博覧会 環境影響評価準備書に関する検討事項一覧

この資料は本件に関して、審査会から横浜市に提出される答申の内容を検討するための資料です。これまでの調査審議の内容を確認し、下表の項目・検討事項・内容を元に答申案を作成します。

■事業計画について

項目	検討事項	内容
事業計画	サステナブルな博覧会の実現について	国際的な園芸・造園の振興や花と緑のあふれる暮らし、地域・経済の創造や社会的な課題解決等への貢献を博覧会の目的としていることから、サステナブルな博覧会の実現に向けて、関係者や来場者と一体となって、カーボンニュートラルや生物多様性の保全、資源循環について積極的な姿勢で取り組むこと。 (指摘事項 1-3-1、4-4-2、4-5-1、4-8-4)
	輸送計画について	輸送計画の深度化にあたっては、公共交通の利用促進策をはじめとして、シャトルバスの運行計画、会場隣接駐車場とパークアンドライド駐車場における予約制の導入や料金設定等の運用、安全な誘導など、円滑な来場者の輸送を実現するための運営について検討すること。 (指摘事項 17-2-22、17-7-7、17-7-9、17-7-11、17-12-1)
	関連事業との連携について	対象事業実施区域内は、旧上瀬谷通信施設地区土地区画整理事業（以下、「土地区画整理事業」という。）が保全対象種の生息・生育環境を整備するとともに、開催後に会場区域は公園として利用される。関連事業である土地区画整理事業や（仮称）旧上瀬谷通信施設公園整備事業と連携して、工事や保全対象種の生息・生育環境の維持管理の計画を具体化するとともに、新たに対策が必要となった場合は適切に対応するなど環境の配慮に努めること。 (指摘事項 2-1-1、2-10-6、2-10-9、2-13-2、2-20-4)

■環境影響評価項目について

【工事中、開催中及び撤去中】

評価項目	検討事項	内容
全 般	サステナビリティ戦略等との関係について	AIPH（国際園芸家協会）の規則等に基づき、博覧会の持続可能性の目標等を示すサステナビリティ戦略等を策定し、取組を進めるとしていることから、サステナビリティ戦略等における温室効果ガスや廃棄物の削減等についての取組内容を環境の保全のための措置として評価書に記載すること。 (指摘事項 0-1-1、0-1-3、1-1-1)
	事業者の見解について	事業者の見解は重要な情報であることから、審査会で補足説明し、質疑において回答した内容については可能な限り評価書に記載すること。 (指摘事項 A-5-1、A-5-2、A-5-3)
	全て改変される可能性について	予測条件について、対象事業実施区域内は土地区画整理事業の造成工事によって全て改変される可能性があるとしているが、関連事業で一部保全した樹林地や大径木を博覧会でも保全し、現況の草地環境を生かした広場を整備する計画としている。評価書ではその前提を踏まえた記載とすること。 (指摘事項 2-22-1)
生物多様性	動物、植物の予測評価について	注目すべき種であるホトケドジョウは、「和泉川源流域」のほか堀谷戸川の下流でも生息を確認していることから、堀谷戸川流域である「樹林が点在する広大な草地域」と「堀谷戸川左岸の耕作地域」を動物の予測地域に加えること。ホトケドジョウは、環境変化に弱い要因があると考えられることから、その影響要因を踏まえて予測評価すること。 また、大径木を保全していることから、大径木が存在する「樹林が点在する広大な草地域」を植物の予測地域に加えること。 (指摘事項 2-2-1、2-4-1、2-5-2、2-10-1)
	事後調査について	土地区画整理事業が整備する保全対象種の生息・生育環境については、保全対象種の移設・移植の状況に不確定要素があることから、土地区画整理事業の事後調査を踏まえた上で博覧会として必要な情報を補完するため、開催前、開催中、開催後に事後調査を適切に実施すること。 (指摘事項 2-20-1、2-20-3、2-20-6)

【開催中】

評価項目	検討事項	内容
温室効果ガス	カーボンニュートラルを目指した目標について	電力は再生可能エネルギーの100%活用を目指し、省エネルギー型製品の導入等により温室効果ガスの削減に努力するとしているが、エネルギー源として都市ガスやプロパンガスの使用も想定していることから、カーボンニュートラルを目指した積極的な環境の保全のための措置を評価書に記載すること。 (指摘事項 1-1-1、1-3-1)
生物多様性		
水循環	堀谷戸川流域の雨水流出量について	対象事業実施区域の堀谷戸川流域において会場施設等の存在に伴う雨水流出量の変化量が少なくないことから、堀谷戸川の予測地点より上流域全体における変化量についても算出し、影響の程度を評価書に記載すること。 (指摘事項 3-1-1)
廃棄物・建設発生土	廃棄物削減の取組について	廃棄物を可能な限り削減するとしていることから、植物残さの堆肥化などリサイクルの推進やリユース食器の利用推進、食品ロスの削減、ごみ分別の徹底等について具体的な取組を検討し、評価書に記載すること。 (指摘事項 4-4-2、4-6-1、4-6-3、4-8-3)
	廃棄物の発生量、再資源化量、処分量の公表について	過去の博覧会等の原単位から廃棄物の発生量を予測し、それに対し可能な限り廃棄物を削減するとしていることから、博覧会開催中の一般廃棄物と産業廃棄物の発生量、再資源化量、処分量について公表すること。また、資源循環の観点から、リサイクルした堆肥を博覧会でどの程度活用したかについても公表すること。 公表にあたっては、統計を取って種類ごとや来場者1人当たりの量を示すなど、今後の博覧会に生かせるように努めること。 (指摘事項 4-4-3、4-6-2、4-6-3)
大気質		
騒音	関係車両の走行に伴う道路交通騒音について	関係車両の走行に伴う騒音レベルについて、現況では環境基準を満たしているが、予測で環境基準を上回る地点がある。その要因を考察し、評価書に記載すること。 (指摘事項 8-1-1)
振動		
地域社会	将来一般交通量について	将来一般交通量を転換率式併用QV分割配分手法で推計しているが、分割回数やその比率等によって予測が変わることから、予測条件を評価書に記載すること。 (指摘事項 17-1-7)
	徒歩等による来場者を踏まえた予測評価について	輸送計画では多客日において徒歩等により約6,000人の来場者を想定していることから、その来場経路や人数割合を示した上で、交差点を横断する来場者を考慮して交通混雑を予測評価すること。 (指摘事項 17-8-1、17-8-2)

評価項目	検討事項	内容
地域社会	関係車両の滞留への対策について	交差点需要率が限界需要率を上回り、車線の交通容量比が1.0を上回る交差点においては、一般交通流への影響はないとしているが、関係車両の滞留への対策を検討し、評価書に記載すること。 (指摘事項 17-3-1、17-3-3、17-3-4)
	無信号交差点における予測について	無信号交差点において、バスターミナルからのシャトルバスが環状4号線に左折するにあたり、大型車は小型車に比べて時間を要することから、実測した結果を踏まえて予測評価すること。 (指摘事項 17-4-1、17-4-3)
	シャトルバス発着駅の予測評価について	会場周辺4駅からのシャトルバスについて、各駅におけるバス乗り場や滞留場所、滞留人数を具体的にした上で、駅からの流入が変動することを踏まえて来場者の滞留による駅利用者への影響を予測評価すること。 (指摘事項 17-7-1、17-7-2)
	パークアンドライド駐車場に対する環境影響について	パークアンドライド駐車場の場所が全ては示されていないことから、候補地選定の考え方を評価書に記載すること。 また、具体的な候補地が決まり次第、既存の駐車場を活用する場合を除き、周辺道路の交通状況を予測評価し、あらかじめ周辺住民等へ周知するとともに公表すること。併せて、候補地の周辺状況を踏まえ必要に応じて大気質、騒音、振動等についても同様に行うこと。 (指摘事項 17-2-2、17-2-5、17-2-6、17-2-28、17-11-1、17-11-5)
景観	囲繞景観の予測地点での予測方向について	囲繞景観では背景に自然環境があることも景観に含まれることから、対象事業実施区域内の囲繞景観の予測地点において360度撮影をしている場合は、その地点の環境を反映するために全方向を対象に予測評価すること。 (指摘事項 18-1-1)
	囲繞景観における価値認識の評価について	囲繞景観における価値認識について、普遍価値の利用性は利用のアクセス性、固有価値は人と環境との調和の観点からの評価とするとともに、具体的な評価の考え方を評価書に記載すること。価値の変化はその考え方を基に、景観の変容も踏まえて予測評価すること。 (指摘事項 18-2-1、18-2-3)
触れ合い活動の場		

注) 指摘事項については、主なものを記載しています。